

2016 年 7 月 28 日（水） 社会学科 FD 研修会 @白金校舎 1 階 14 会議室

学期末の定期試験期間中に、社会学科 FD 研修会が開催されました。2016 年度から専任講師として本学科に着任した安井大輔先生がスライドを使った基調報告をされました。つい昨年度まで在籍していた京都大学で関わっていた「プレ FD プロジェクト」についての詳しいご報告でした。このプロジェクトは、教員になる前のオーバードクター（OD）向けに、「大学で教えること」についてのスキルと知識の獲得を目指し、OD が非常勤講師として任用されるための前歴をつけることを目的にしたプロジェクトです。OD によるリレー講義形式のゼミがどのように実施されたか、その詳細をご紹介いただきました。

安井先生の報告後には、パワポと黒板の併用方法やグループ・ディスカッションの活用法などについての質疑応答がありました。その後、学科教員が 4 人ずつに別れて約 30 分のグループ・ディスカッションを実際に行いました。そして、最後にディスカッションの結果を学科全体で共有することができました。報告されたディスカッションの結果を一部紹介しましょう。

- ①学科のカリキュラム改革によって学生の書く力はついたが話す力が課題であり、それについては演習（ゼミ）で力をつける必要がある。ゼミ合宿で学年を超えたチームによるディベート大会を催す、ゲストスピーカーに対してしっかりとした質問をすることを要求する、強制的に何度も研究発表を繰り返すなど、教員ごとの工夫が紹介された。
- ②大教室講義では、私語を押さえるのは難しいが、教員が教室内を巡回したり、話している学生の近くに立って講義を止めたりするなど、教員ごとの工夫が紹介された。またパワポだけでなく、板書と配付資料とをうまく使い分けるなどのスキルが共有された。
- ③大教室の授業でもフィードバックの繰り返しが重要であること、学生同士のつながりを活用するスキルなどが共有された。



【写真左】 安井先生による基調報告、【右】 報告後のグループ・ディスカッションの様子。

《社会学科主任 坂口緑教授より》

今回は、社会学科で取り組んだ初めての授業方法についての FD でした。社会学科では、1，2 年生向けの導入授業を中心に、カリキュラムの内容や成績評価については時間をか

けて熱心に議論してきましたが、スキルに関わる部分は個人の工夫に委ねられてきました。今回、安井先生の発題をもとに、スキル、工夫、知恵といった部分を共有できたのは貴重な機会でした。これからも、機会を見つけて授業に関する知恵を共有する機会を作っていきたいと思います。

問合せ先：総合企画室 kikaku@mguad.meijigakuin.ac.jp